

平成 25 年度
横須賀美術館 評価報告書
(一次評価)

平成 26 年 (2014 年) 6 月

横須賀美術館

I 美術を通じた交流を促進する

- ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	B

【達成目標】年間観覧者数 104,000 人

〔目標設定の理由〕

- ・「横須賀市立美術館 基本計画」（平成 12 年 6 月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などを勘案し、年間観覧者数を 10 万人と予測しました。開館後は、その予測を年間観覧者数の判断基準としています。
- ・今年度の達成目標は、当初は 2・3 月の企画展が未定であったことから 98,000 人を見込みましたが、年度途中で「海辺のミュージアムでみる日本画展」の開催が決定し、6,000 人の観覧者を追加で見込んだ 104,000 人を最終的な達成目標としました。

年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
観覧者数	100,033 人	108,985 人	97,535 人	101,841 人
来館者数	231,826 人	224,109 人	242,229 人	220,740 人

〔一次評価の理由〕

- ・年間観覧者数 104,000 人という目標設定に対し、実績は 101,841 人となり目標を下回りましたが、当館の規模、市の人口等から基準としている年間観覧者数 100,000 人に到達したことは一定の評価ができると考えられることから「B」評価としました。

展覧会名	観覧者数(見込)	観覧者数(実績)	達成率
日本の木のイス展	3,000	3,661	122%
街の記憶展	13,000	14,021	107.9%
日本の「妖怪」を追え！	25,000	29,701	118.8%
たいけん、ぼうけん、びじゅつかん！	25,000	18,886	75.5%
山崎省三・村山槐多とその時代	12,000	5,957	49.6%
第 66 回児童生徒造形作品展	15,000	13,767	91.8%
海辺のミュージアムでみる日本画展	6,000	10,072	167.8%
所蔵品展	5,000	5,776	115.5%
合計	104,000	101,841	97.9%

【実施目標】

広報、パブリシティ活動を通じて、市内外の広い層に美術館の魅力をアピールする。

〔目標設定の理由〕

- ・横須賀美術館の魅力は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。
- ・市内外に積極的に情報を発信して広い層に美術館の魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定しました。

〔一次評価の理由〕

- ・無料での情報掲載数、ツイッターのフォロワー数、商業撮影の件数等が目標に満たなかったものの、各指標の件数自体は増加傾向にあることについて、一定の評価ができるものと考えて「B」評価としました。

（無料での情報掲載数）

- ・新聞、雑誌等の無料での情報掲載数は209件となり、目標の220件を達成することはできませんでしたが、過去3年の実績は上回っています。

媒体	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
新聞	40件	46件	50件	54件
美術系雑誌	38件	37件	26件	30件
タウン紙	20件	28件	31件	44件
フリーペーパー	18件	6件	4件	3件
情報誌（地域版）	5件	4件	6件	3件
情報誌（全国版）	18件	19件	19件	25件
WEB	15件	30件	40件	21件
ファッション誌	11件	6件	11件	11件
機関紙（会員誌）	13件	12件	13件	8件
その他	8件	12件	7件	10件
合計	186件	200件	207件	209件

（美術館公式ツイッターのフォロワー数）

- ・フォロワー数2,000人を目標としましたが、フォロワー数は1,562人と、目標を達成することはできませんでした。現在もフォロワー数は伸びておりますが月100人のフォロワーという目標設定が高かったものと考えています。

【参考：平成26年3月31日現在 フォロワー：1,468人、ツイート：1,049回】

(インバウンド推進のための環境づくり)

- ・外国語表記のパンフレット製作の予算を要求しましたが、要求はとおりませんでした。外国人の利用が多いフェイスブックの導入や米海軍横須賀基地との連携につきましては引き続き検討している段階です。

(商業撮影の受け入れ件数)

- ・イメージアップと認知度の向上を目的に商業撮影を受け入れています。昨年度は30件を目標としましたが最終的に23件となり目標を達成できませんでした。しかし、これまではなかったドラマやCMの撮影など、目的の達成に効果の高い撮影の問い合わせが増えています。撮影の時間や場所など、撮影者のニーズに柔軟に対応してきたこれまでの取り組みの効果が始めたと考えています。

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
撮 影 件 数	21 件	22 件	23 件
使 用 料	494,000 円	677,500 円	1,970,500 円

※問い合わせ件数・・・スチール 50 件、動画 26 件

(その他の広報・集客促進事業)

(1) 展覧会やイベント等の広報宣伝による集客促進

- ・京浜急行電鉄等への広告掲出
 - ⇒京浜急行線 駅貼り（2週間）5回、窓上（4週間）5回
 - ※街の記憶、妖怪展、たいけん展、山崎展、日本画展で実施
 - ⇒東急東横線 窓上（4週間）1回
 - ※妖怪展で実施
 - ・美術系雑誌やタウン紙等、有料での情報掲載
 - ⇒美術手帖、月刊ギャラリー 各1回
 - ※山崎展で実施
 - ⇒タウンニュース 3回
 - ※たいけん展、日本画展、市民サービスデー「美術鑑賞の日」（無料観覧日）告知で実施
 - ・広報よこすか等、他部局の広報媒体を活用した情報発信
 - ⇒毎月の広報よこすかへの毎月の展覧会情報、美術館のイベント等の掲載
 - ・展覧会チラシの配架やポスターの掲出
 - ⇒横須賀市と三浦市の京急線全駅へのチラシの配架
 - ⇒宿泊施設や周辺観光施設へのポスター、チラシの配架
 - ⇒市内施設（各行政センター、役所屋等）へのポスター、チラシの配布
- (2) イベント開催を通じた知名度・イメージの向上による集客促進
- ・コンサート等のイベントの開催
 - ⇒クリスマスコンサート1回、マジックワークショップ3回開催
- (3) 来館者サービスによる集客促進
- ・年間パスポート、前売り券の販売

⇒年間パスポート 402 枚、前売り券 81 枚

- ・福利厚生団体や宿泊施設と提携し、割引契約の締結

⇒提携団体：21 件、その他期間限定のクーポン等：10 件

※神奈川県青色申告会連合会に働きかけを行い、平成 26 年度より提携開始

(4) 他部局、事業者との連携による集客促進

- ・各種イベントへの参加や、他の美術館との連携

⇒カレーフェスティバル、日産スタジアムでの横浜 F・マリノス戦、観音崎フェスタ、三浦半島魅力展示会にブース出店、他の美術館との連携企画（三井記念美術館、そごう美術館と連携し「妖怪展めぐり」を実施）

(5) 団体集客の推進

- ・旅行事業者との協定の締結等による団体集客の促進

⇒クラブツーリズム、京急観光、小田急トラベルと協定を締結

クラブツーリズム 2,755 人 (H24 年度 1,189 人)

京急観光 169 人 (H24 年度 ツアーなし)

小田急トラベル 213 人 (H24 年度 ツアーなし)

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
S	A

【達成目標】市民ボランティア協働事業への参加者数のべ 2,100 人
(事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して)

〔目標設定の理由〕

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の1つとなります。
- ・プロジェクトボランティア、サポートボランティアとも、主な担い手となる人数がわずかながら増加し、安定した活動をしています。
- ・プロジェクトボランティアの活動では、イベントの一般参加者数が飽和に達し、これ以上は増加しないと考えられます。
- ・サポートボランティアの活動では、ギャラリートークへの参加者平均が微増しています。
- ・以上を勘案し、25年度の目標は、2,100人とします。

〔一次評価の理由〕

- ・25年度ののべ参加者数は2,551人となり、目標を大きく上回りました。

(市民ボランティア協働事業への参加者数)

	プロジェクトボランティア の活動		サポートボランティア の活動		計
	登録者	一般参加者	登録者	一般参加者	
平成 22 年度	91	580	375	174	1,220
平成 23 年度	197	533	434	274	1,438
平成 24 年度	258	1,116	392	309	2,075
平成 25 年度	337	1,434	477	326	2,574

※プロジェクトボランティア

- ・美術館のイメージアップと美術館の利用を高めるため、自らイベントを企画実施するボランティア。主な活動は、市民等が参加し楽しめるボランティアイベントの開催。登録者数 29 名 (平成 26 年 3 月末現在)

※サポートボランティア

- ・美術館が主催する活動を共感し、自身の知的欲求を充足しつつ美術館活動をサポートするボランティア。主な活動は、ギャラリートークの実施。ボランティアイベントやワークショップ、小学校美術館鑑賞会の補助。登録者数 50 名（平成 26 年 3 月末現在）

〈プロジェクトボランティア〉

- ・開催時期や、海の広場の立地条件を考慮した企画が、たくさんの人が集まるイベントの魅力につながっています。
- ・25 年度は、年 3 回（ゴールデンウィーク、夏、冬）イベントを実施しました。
- ・昨年度にひきつづき、GW・夏のイベントを自由参加型としたため、多くの方に参加していただくことができました。
- ・企画側が経験値を積み、小さな子どもでも参加できる内容の工夫や、気軽に参加しやすい運営方法を取り入れたことが、参加者数の増加につながっています。
- ・季節を問わず、海の広場を用いたイベントについては、市内の子どもを持つ家庭に定評があり、すでに恒例行事として定着していると考えられます。
- ・プロジェクトボランティアの活動内容を知らせる facebook ページが 6 月に開設され、公開されています。

〈サポートボランティア〉

- ・鑑賞サポートボランティアの第 3 期生を迎えたことが、活動の延べ人数の増加に反映しています。
- ・前年度にひきつづき、所蔵品展ギャラリートークへの一般参加者数が増加しています。
- ・活動人数に余裕ができ、ギャラリートークをひとりで担当しなければならないケースは少なくなっています。複数で担当することにより、ボランティアの心的負担が軽減するとともに、聴く側の来館者にとっても、参加しやすい雰囲気がつくられています。

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
 - ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。
-

〔目標設定の理由〕

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館の担うべき社会教育の一

環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

【一次評価の理由】

〈プロジェクトボランティア〉

- ・「だれでもやることができる」「フリーで来ても参加できる」「美術館を活かした活動をする」という点に留意しながら、年3回ゴールデンウィーク、夏休み、クリスマスに近い時期に、ボランティア自身が発案し運営するイベントを行っています。それぞれのイベントは地域の行事としてすでに定着し、市民を中心に多くの方が参加しています。
- ・イベントの参加者、特に子どもたちと交流を持つことが、企画するボランティアのやりがい、喜びの大きな要因となっています。
- ・活動に興味を持ち、企画段階から主体的に参加するボランティアが増えています。
- ・若い世代の参加者が増え、異世代交流の機会となっています。
- ・イベントの準備や当日の進行がスムーズに行われているのは、これまでのイベントで積み重ねてきたボランティアの経験が活かされているからです。

〈サポートボランティア〉

- ・研修を月2回実施し、サポートボランティアとして活動するために必要な知識とスキルの向上に努めています。
- ・24年度に募集した第3期生が、さまざまな研修を経て、25年7月から他のボランティアと同じように活動をしています。
- ・研修の一環として、山種美術館を訪問するツアーを実施し、好評でした。
- ・研修では、それぞれの企画展について、担当学芸員によるレクチャーを行っています。
- ・ギャラリートークでは、当日の担当者間で取り扱う作品を分担し、それぞれ工夫した個性的なトークを展開しています。
- ・小学校美術館鑑賞会では、ボランティア1名について1クラスの引率をお任せしており、責任感とやりがいをもって取り組んでいただいています。
- ・障害児を対象としたワークショップ「みんなのアトリエ」の補助は、特に希望する人が増えています。

【課題への取り組み】

〔一次評価で掲げた課題〕

- ・プロジェクトボランティアについて、新規参加者の定着をはかります。
→当日ボランティアとして、くりかえし参加してくださる方が増えています。
- ・情報発信のあり方を検討します。
→プロジェクトボランティアの活動内容を知らせる facebook ページが6月に開設され、公開されています。

- ・研修を通じて、サポートボランティアの能力のさらなる向上を目指します。
→第3期生の研修にあたっては、ロールプレイングなどをまじえ、ギャラリートークのスキル向上に直接つながる実践的な内容を重点的に行いました。
→研修の一環として、小学校鑑賞会での鑑賞補助のあり方について、教育指導主事にお話を伺いました。

[二次評価で指摘された課題]

- ・ボランティアの活動に対する満足度も評価にあたって勘案すべき。(柏木委員)
→互いに顔を合わせる範囲での活動であり、数値で表すことは難しいと考えていますが、継続的に参加されている方については、概ね満足していただいているものと認識しています。登録されていながら、なかなか活動に参加できない方に対しては、アンケート等の手段で意向を伺い、活動のよりよいあり方を模索する手掛かりとして参ります。

【次年度への課題】

- ・ボランティアの多様な活動の実態と、ボランティアからの近年の要望に応じて、活動内容、募集の方法を見直します。
- ・サポートボランティアは多様な場での活躍を求められています。それぞれの活動の目的、個々のボランティアのスキルに応じた、きめ細かな研修のあり方を模索していきます。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
C	S

【達成目標】企画展の満足度（補正值）81%以上

〔目標設定の理由〕

展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、年間6回開催している企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安の代表として掲げることとしました。

満足度は来館者へのアンケートによって算出しています。同じ方法の調査を継続的に行っており、目標はこれまでの最高である平成24年度の80.9%を超える81%としました。

〔一次評価の理由〕

目標の「81%以上」に足りない77.6%という数値となりました。81%を達成したのは、「児童生徒造形作品展」のみであり、目標には届かない結果となりました。

年度	22年度	23年度	24年度	25年度
企画展満足度	78.7%	80.6%	80.9%	77.6%

企画展別にみると、「街の記憶展」は15作家による、戦後の「ヨコスカ」を題材とした写真、現代美術に資料を加え、約180点で構成しました。本格的に写真を紹介する初の展覧会となり、写真ファンを中心に一定レベルの満足度を得ました。一方で、各作家の作品数をもっと増やしてほしいという声も聞かれ、満足度は70%を割る67.8%となりました。

「日本の「妖怪」を追え！」は、浮世絵から、近代の日本画や油彩画、そして現代美術まで、さまざまなかたちで表現された「妖怪」を紹介した展覧会です。「妖怪」というテーマの親しみやすさに加え、同時期に他美術館が開催した「妖怪展」と連携した広報や割引も功を奏しました。市民率が高いことも特徴の一つです。

「たいけん、ぼうけん、びじゅつかん！」は、plaplax、日比野克彦、KOSUGE1-16、

松井紫朗による参加、体験型の作品を集め、質の高い現代美術に親しみをもちながら、親子で楽しめることを目指した展覧会です。作品のインパクトや、わかりやすいタイトルと内容の一致もあり、高い満足度を得られました。

「山崎省三・村山槐多とその時代」展は横須賀ゆかりの作家、山崎省三の紹介を目的に構想しました。農民美術運動や自由画教育に携わりながら、独自の表現を追究した画家、山崎の久々の展覧会への期待が、全体の満足度を上げていると考えられます。

「海辺のミュージアムで見る日本画展」は、横須賀美術館が所蔵する日本画で構成した初めての展覧会です。代表的なコレクションや、普段、所蔵品展示室であり紹介できない大型の作品などを含め約 60 点を紹介しました。日本画への期待、幅広い人気から、高い満足度を得ました。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要ですが、82.1%と高い数値を得られました。

また、要素別に満足度を検討すると、「解説・順路」については、改善の余地がある高くない数値となっています。アンケートでも、「キャプションの漢字が読めない」「解説が難しい」などの意見が寄せられているので、より分かりやすい表示をしていくなど、今後の課題といたします。

なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間5回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展を年間4回開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・所蔵図書資料を充実させる。
- ・多くの人が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

〔目標設定の理由〕

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を発信し、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。

美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間5回の企画展を計画・開催しています。

また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展を年間4本開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎となっているのが、日々の調査研究です。その範囲は、所蔵作品に関するを中心、広く美術に関する、美術の教育普及に関するを含んでいます。

〔一次評価の理由〕

25年度の企画展は、絵画以外の領域で関心の高い写真展、親しみやすいテーマ展、親子で楽しめる現代美術、日本近代美術の作家の個展、所蔵作品を生かした日本画展など多岐にわたっていました。

また、25年度の事業予定は当初、「5回」の自主企画展と、市経済部による特別企画展1回を開催する予定でしたが、後者に対する当初予算が修正削減されたため、急きょ教育委員会が補正予算を組み「6回」の自主企画展へと変更いたしました。本来、展覧会の企画から実施までは1年以上要するものですが、所蔵品を活用した企画ではあるものの短期間で準備し、一定の質の展示を提供することができました。そのため評価を「S」としています。

「街の記憶展」は、15人の写真家、美術家による、戦後の横須賀の写真を中心に構成しました。すぐれた写真を展示することで、写真愛好家という新たな層の開拓を期待しました。さらに市民から募集した「家族の思い出」写真を展示することで、多様で身近な視点による街の姿を浮かび上がらせようとしてしました。

「日本の「妖怪」を追え！」展では、夏休みに「妖怪」という親しみやすいテーマで、江戸時代の浮世絵から近代の日本画、油彩、そして現代アートまで幅広く取り上げました。同時期に東京、横浜の2館で妖怪展が開催されましたが、両展が近世以前の絵画を中心に構成されるのに対し、本展はひろく現代アートまで対象とし、差別化と内容の充実をはかりました。

「たいけん、ぼうけん、びじゅつかん！」展は、現在活躍する4組の作家による現代美術展です。現代作家によるグループ展は開館展以来の開催で、テーマを「参加・体験型」とすることで、特に親子に向けて内容をアピールしました。出品作品は触る、身体ごと中に入る、といった視覚以外の要素を重視して選択し、かつ質の高い近作・新作と限り、現代美術ファンも満足できるような展示を目指しました。

村山槐多の親友・紹介者として名が知られる山崎省三ですが、本人の画業については、1989年の展覧会を最後にまとまって紹介されていませんでした。「山崎省三・村山槐多とその時代」展は横須賀ゆかりの作家、山崎省三の画業の全体像を明らかにすると同時に、今後の研究の基礎資料となりうるカラー版の図録をつくることも重要なねらいとしました。

「海辺のミュージアムでみる日本画展」は、所蔵品のみで構成しましたが、訴求力を高めるために、展覧会のタイトルを工夫し、「質が高く親しみやすい日本画」というイメージが伝わるようにつとめました。また、モチーフ別の章立てとし、内容が

理解しやすいように意識しました。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。結果的に小企画展を行ったこととなり、総合で満足度が75.4%と昨年度より10%近く上がっています。

第1期では、「植松眞治 デッサンとタブロー」と題し、当館が収蔵する横須賀・三浦半島ゆかり作家のタブローと関連するデッサンから、作家の発想を探る展示を行いました。

第2期では、「眞板雅文 あめつちとの協奏」と題した特集展示を行いました。新収蔵となった眞板の代表作《水面の宴》を中心に、ご遺族からの借用作品も加え、北側展示ギャラリーを中心にインスタレーションとして展示しました。また、展示にあわせて小冊子も発行しました。

第3期では、展示室8で「父、若林奮」と題し、彫刻家の若林奮が娘二人に作ったおもちゃを展示しました。没後10年を機に、若林家所蔵の様々な品を通して、知られざる一面をご紹介します。

第4期では、「水の情景」と題して、所蔵品の中から「水」にまつわる作品を展示室5及び8で展示しました。テーマを設定することで、普段あまり展示されない作品や現代美術まで幅広く紹介することができました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年4回の展示替えを行っています。25年度は、第1期では「谷内六郎と海」、2期では「子どもの遊び」、3期では「あの日の音がきこえる」、4期では「いつも鉄道をみてた」とテーマを立てて、展示をしました。

教育普及事業（一般向け）につきましては、一覧すると下表のようになります。

いずれも規模は大きくありませんが、入念な準備によって、それぞれ充実した内容となっています。参加者と講師、主催者の距離が近く、より密なコミュニケーションが可能であることが、事業効果の高さにつながっています。

講演会・アーティストトーク

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
はじまりの場所 —横須賀と写真家	6月22日	倉石信乃(明治大学 教授)	70	—	40
怪談の夕べ	8月10日	一龍齋貞山(講釈 師)、新藤茂(浮世絵 研究家)	70	175	62
怪談の夕べ 弐	9月1日	一龍齋貞山(講釈 師)、新藤茂(浮世絵 研究家)	70	70	58
アーティスト・トーク	9月15日	plaplax(近森基)× KOSUGE 1-16(土 谷亨)	70	—	18
代々木ユートピアの青春 —槐多と省三	12月1日	瀬尾典昭(渋谷区立 松濤美術館主任学芸 員)	70	—	21
谷内六郎からひろがる鉄 道の原風景	2月23日	米山淳一(地域遺産 プロデューサー/公益 社団法人横浜歴史資 産調査会常任理事・事 務局長)	70	—	20

展覧会関連ワークショップ

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
うまくならない写真ワークシ ョップ@横須賀	5月12日	大山顕(“ヤバ景”フォ トグラファー/ライター)	20	31	18
切り紙でつくるクリスマス のモビール	12月8日	吉浦亮子(切り紙アー ト作家、Papirclip 主宰)	20	63	18
六郎こけし教室Part II	2月11日	沼田元氣(写真家詩 人/雑誌『こけし時代』 編集長)	30	40	27
英語で日本画 Let's talk about Nihon-ga	3月8日	ブライアン・アムスタ ッツ(翻訳家)	12	12	12
	3月9日		12	12	12

オトナ・ワークショップ

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
レースの和紙で和とじノートをつくる	10月12日	森田千晶 (和紙作家)	20	33	19
トンテンカン！ 真鍮のピンバッジ作り	2月8日	小原聖子 (金工作家)	12	18	5
	2月9日		12	15	7

映画上映会

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
冬のシネマパーティー 『浮き雲』	2月1日	キノ・イグルー (シネクラブ)	25	30	24
	2月2日		25	31	24

企画展・谷内六郎展に関連して、6回の講演会と、4回のワークショップを行いました。

「日本の「妖怪」を追え！」展関連事業として開催した「妖怪の夕べ」では、出品作にちなんだ怪談をプロの講釈師にお話いただくという、講演会としては新しい試みを取り入れ、怪談の効果が高まる閉館後に開催しました。季節的にも、また展覧会の内容にもふさわしかったせいか、予想以上の好評を得ることができました。

「オトナ・ワークショップ」は、当館の事業の中でも特徴的なものの一つです。一般に子ども向けに行われることの多いワークショップを、あえて大人向けに行うことで、近隣からのリピーターや他都市から多くの応募者を獲得しています。25年度も引き続き、非日常的な材料を用いて身近なものをつくるワークショップを大人向けに行いました。

なお、大人対象のワークショップについては、歳入増加を求められている状況の中、25年度から1,000円程度の参加費を徴収することとしました。いまのところ、そのことによる応募者の減少など目立ったマイナスは見られません。

なお、応募が多かったにもかかわらず、大雪の影響で、参加者が大幅に落ち込んだ事業がありました。このため、次年度に、ほぼ同じ内容の事業を開催する予定です。

映画上映会は、「シネマパーティー」として恒例化しているイベントで、例年通り、安定した参加者数を得ています。

図書室に関しましては、定期購読雑誌や作品集をはじめ、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野での美術図書、自館で開催する展覧会に関連する資料、子供向けの美術入門書やアーティストによる絵本などを収集しています。また、配架の工夫や室内案内表示など、利用しやすい環境づくりに努めています。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 20,000 人

〔目標設定の理由〕

子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするためのさまざまな取り組みをしていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

25年度の目標は、過去3年（平成22年度～24年度）の観覧者数の平均が19,620人であることを踏まえ、20,000人としました。

〔一次評価の理由〕

25年度の年間観覧者数は21,296人（発券外観覧者を含む）となり、目標を達成しました。

（中学生以下の観覧者数）

	幼児	小学生	中学生	計
平成22年度	3,074	10,418	2,941	16,433
平成23年度	4,041	14,442	4,285	22,768
平成24年度	4,314	11,301	3,881	19,496
平成25年度	5,358	11,819	4,119	21,296

若年層に配慮した事業と、そのPR計画の成功が、目標達成につながっています。

7～9月の夏休み中に開催した「日本の『妖怪』を追い！」展は、子供にも大人にも親しみやすいテーマから、家族連れの来館を促進したと推測されます。また、同展は、市内の小学校を通して全児童にチラシ配布したことが効果をあげたと考えられます。

さらに、9～11月に開催した「たいけん、ぼうけん、びじゅつかん！」展では、幼児から高齢者まで世代を超えて楽しむことができる体感型の作品を紹介しました。これにより、10月の幼児の来館者数が初めて1,000人を超えるなど、3ヶ月間を通し、中学生以下の観覧者数が前年度を大きく上回りました。

また、子供向けワークショップや児童生徒造形作品の開催等によって、小・中学生の造形活動を支援しています。

鑑賞の面では、24年度から継続して、①すべての企画展で親子向けの展示案内（親子ツアー）を実施、②全市立保育園と連携し、出前授業を含む鑑賞プログラムを園ごとに実施、③小学校美術館鑑賞会の充実に向けた、鑑賞会内容および教材開発のための教員

との勉強会に参加、以上3つに着手しています。幼児の観覧者数の増加は、上記①②の成果が確実に反映しているものと見ています。

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
 - ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
 - ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
 - ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。
 - ・小学校鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化します。鑑賞会と連動した教材の開発、出前授業の実施などを教員と協力しながら実施します。
-

〔目標設定の理由〕

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、造形教育に偏りがちでした。

近年の年度にわたる学習指導要領の改訂にともなって、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。23年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。

学校教育ではできない、美術館にしかできないことは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

〔一次評価の理由〕

- ・開館2年目の20年度から、市内の子どもたちの作品を一堂に展示する「児童生徒造形作品展」の会場となっています。学校・幼稚園と緊密に連携しながら、運営にあたっています。
- ・市内の全46小学校の6年生を対象として、「小学校美術館鑑賞会」を実施しています。対応には学芸員と鑑賞サポートボランティアが複数であり、ワークシートなどを利用して、鑑賞の楽しさを知ってもらえるよう努力しています。受け入れ側が経験を積むことによって、鑑賞内容も充実に向かっていきます。
- ・市外や私立の小・中学校の団体に対しても、事前の相談を経て、注意事項についての話やワークシートの提供を行うことがあります。
- ・夏休みの時期にあわせ、「中学生のための美術鑑賞教室」を実施しています。参加は任意ですが、広報する地域を拡げたため、市外中学生の割合も増えています。
- ・「アーティストと出会う会」では、実物や仕事の資料を持ち込み、仕事について具体的にお話いただくスタイルが人気を呼んでいます。しかし、現在の日程設定（夏休み中の平日）では、学校単位または部活単位のまとまった参加が得られるかどうかで参加者数が左右されがちです。また、これまでの参加者の反応から、講演会と

いう形式自体が中高生にはなじみが薄いのではないかとも思われます。

- 子どもを対象とした普及事業に積極的に取り組んでいます。ワークショップをはじめとした造形活動のほか、野外映画会や、親子向けのギャラリートツアーなど、さまざまな方向から、幅広く美術を楽しむ機会を設けています。
- 鑑賞支援活動については、対象となる年齢層の幅を広げています。親子向けのギャラリートツアーを企画展ごとに実施したほか、市の保育課と連携し、市立保育園全10園に対し、出前授業と来館時の鑑賞プログラムを実施しました。
- 文化庁の補助事業として、横須賀市造形教育研究会に所属する教員と協力し、「小学校美術館鑑賞会」の事前授業などに活用できる鑑賞教材「横須賀美術館アートカード」を制作しました。(横須賀美術館学芸員と教員で組織する「地域とはぐくむ子どものための鑑賞教育基盤整備事業実行委員会」の事業)

【次年度への課題】

- 平成25年度は、アートカード制作のための教員との勉強会を通じて、教員との協力体制を確立することができました。次年度は、この実績を生かし、一層の関係強化に取り組むとともに、アートカードを用いた鑑賞活動の学校における普及に力を入れます。
- 「アーティストと出会う会」について、個人単位での参加がしやすくなるよう、開催時期や事業形式などについて検討を進めます。

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

[一次評価]

達成目標	実施目標
—	C

【達成目標】(なし)

[目標設定の理由]

購入費（基金）が充当されていないため、収集は寄贈に頼っている状況です。

寄贈される作品の質については、専門家による外部委員会である「美術品評価委員会」によってすでに保証されていますが、作品の収集は数量によって評価されるべきではありません。

作品の修復、額装等の処置についても、個々の事例に即して対処しているため、やはり数量的な評価に適していません。

作品の貸出は、依頼に応じて行う性格のものであり、また、作品保護の観点からも数量的な評価をすべきではないと考えます。

したがって、この項目では達成目標を設定しません。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
 - ・ 適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
 - ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
 - ・ 所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。
-

[目標設定の理由]

・ すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえで、可能な範囲で行っています。

【一次評価の理由】

25年度は寄贈37点を受入れました。山崎省三、浜口タカシ、眞板雅文、鈴木昭男作品は今年度で開催した展覧会が作品の寄贈につながりました。

20年度以降、毎年50点を超える作品を受け入れてきており、昨年度の64点と比較しても寄贈受入が減少しましたが、これまでと同様のペースで短期間に多くの作品を寄贈によって受け入れることには、長期的にみたときに、コレクションのバランスを崩してしまうおそれもあります。今後も作品を厳選し、より慎重な作品収集を行うべきと考えます。

収蔵庫・保管庫について、昆虫類、菌類、気相についての調査（環境調査）を年度内に2回実施し、概ね良好であることを確認しています。開館以来継続的に行っていることには、環境の長期的な変化を観察する意味があります。

修復、額装は、所蔵品展特集展示を開催するにあたり眞板雅文作品の修復に費用を集中しました。近年の寄贈作品を中心に、必要な修復、額装を行っているほか、既存の作品でも画面への映り込みがはなはだしいものについては、アクリルやガラスを外して額縁改修を行うなど見直しを進めています。

所蔵作品の活用について、所蔵作品のうち14件101点（寄託作品を含む。）を他機関に貸出しました。貸出点数が100点を超えたのは、谷内六郎展65点、「山崎省三・村山槐多とその時代」展10点の貸出があったためです。この実績は、ある時期の美術の特色を映し出すすぐれた作品や、作家の画業を振り返る上で重要な作品が当館のコレクションに含まれていることを示しているといえます。件数から見ても、21年度実績の16件、22年度実績の12件、23年度実績の18件、24年度実績14件と同程度といえます。

以上により、例年並みの活動をしているといえますが、作品購入費の充当が途絶えている状況が解消されていないことから、一次評価を「C」としました。

【次年度への課題】

- ・ 作品購入の必要性を説明していくと共に、財源についても一層の検討を進め、たとえ少額でも作品購入費が予算配当されるよう引き続き努力してまいります。
- ・ 収集作品を精選します。
- ・ 貸出作品の偏りを減らすため、所蔵作品の活用と周知に努めます。

Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	A

【達成目標】 館内アメニティ満足度 91%以上
スタッフ対応の満足度 80%以上

〔目標設定の理由〕

館内アメニティ満足度については、来館者が気持ちのよい時間を過ごしていることを示す指標であると考えます。21年度から、アンケートのなかに質問事項を加え、「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごすことができた」に対する満足度を指標（総合満足度）としました。25年度の目標は、これまでの最高を上回る 91%以上としました。

スタッフ対応の満足度については、来館者アンケート「スタッフの対応・案内は適切だった」に対する満足度であり、こちらもこれまでの最高を上回る 80%以上としました。

〔一次評価の理由〕

館内アメニティ満足度、スタッフ対応の満足度はともに高水準で推移しており、目標値に若干届きませんでした。概ね目標達成されていると判断し、B評価とします。

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
館内アメニティ満足度	88.5%	90.4%	87.6%	88.8%
スタッフ対応の満足度	78.0%	78.5%	79.1%	78.5%

館内アメニティ満足度につきましては、

- ・お客様が休憩できる場所が不足していること
- ・美術館入口やトイレの場所がわかりにくいといった案内サインに関すること

スタッフ対応の満足度につきましては、

- ・展示監視員の注意の仕方が悪い

- ・駐車場警備員の接客態度が悪い

など、来館者アンケートの回答や、お客様からのご意見、苦情がございますので、その辺りが満足度を低下させる主たる要因であると推察されます。

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
 - ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
 - ・ 受託事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。
-

【目標設定の理由】

横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため強い風雨にさらされることも多く、また塩害によって老朽化の速度が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要となります。

さらに、ご案内をするスタッフの対応いかんによって、美術館に対する印象は大きく左右されます。受付・展示監視スタッフは受託事業者ですが、市職員との緊密な連携を図り、一体となって、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。

美術館を訪れた際に買い物や食事をすることも、来館者の大きな楽しみです。やはり民間事業者であるレストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

【一次評価の理由】

(メンテナンス)

- ・ 塗装が剥落し美観を損ねていた、エントランス内の冷水機周りを、再塗装しました。
- ・ 経年劣化によりひび割れが発生していた、「海の広場」設置の「横須賀美術館」看板のシート張替えを実施しました。
- ・ ロープ式エレベータ3基の天井照明をLED化しました。
- ・ 空調性能保持のため、熱源機ポンプの整備を行いました。

(清掃)

- ・ 日常の清掃について、人員が必ずしも充分ではない（開館前4名・日中1名）ので、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心がけています。

(休憩所)

- ・ 繁忙期（GW・夏季）の休憩所を確保するため、山の広場に屋外休憩所（テント）を設置しています（20年度以降毎年）。なお、強風等によりテントの劣化が激しいため、

テント以外の方策を検討していきます。

(スタッフ対応)

- ・受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象となりやすく、特に展示監視は来館者への注意なども業務として行うため、どうしてもクレームと切り離せない状況です。スタッフ対応に関わるクレームは現在でも年に数件はありますが、受託事業者の自助努力（研修、スタッフの入替など）や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、満足度の数値も一定以上の水準に達しています。
- ・運営事業者連絡会議の開催（21年度以降継続）
→レストラン、ショップ、受付、展示監視、広報・総務・学芸の各担当が月1回集まり、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案をしています。
24年度から警備にも参加いただいています。
- ・展示監視日報の作成（21年度以降継続）
→情報共有、対応方法の指示をきめ細かに、リアルタイムで行うため、来館者からのクレームの内容、対応等の記録、報告を展示監視事業者に対して義務付けています。
- ・受付、展示監視研修の実施（22年度以降継続）
→受付は、消費税増税に伴う観覧料の変更に対する苦情対応を想定し、年度末に研修を実施しました。
展示監視は、例年通り来館者対応のロールプレイング研修を実施しました。

(ミュージアムショップ)

- ・横須賀美術館オリジナル商品（エコバッグ、ボールペンなど各種）の作製販売や、季節に合わせた商品展開、新商品の販売試行など、満足度向上のための自助努力を継続しています。
- ・本館出入口に近いことから、室温に対する苦情（夏暑く、冬寒い）が見受けられますので、対策を検討してまいります。

(レストラン)

- ・運営事業者の自助努力（スタッフの充実、メニュー改善など）により満足度はかなり向上しています。満足の理由として多いのは、「質の高い食事」のほかに「景色がよい」こと。また、随時、メニューの見直しを行い、低価格帯メニューが豊富になったことで、過去に意見の多かった「価格設定が高い」という意見は激減し、ランチタイムの客数は目に見えて増加しています。
満足いただけていない理由としては、「長時間待たされる」、「混んでいて入れない」など利用したくてもできないケースへの意見が目立っています。
- ・企画展ごとに、展示のイメージや内容に合わせた「コラボレーションメニュー」を考案して提供しており、好評を博しています。
- ・混雑時の顧客のストレスを軽減するため、土日祝日については事前予約をとらず、先着順に対応しています。（21年度以降継続）

- ・混雑が予想される連休等にあわせて、ケータリングカーを誘致し、より多くの来館者に食事を提供できるようにしています。(20年度以降継続)

(災害への備え)

- ・例年通り年2回の防災訓練を実施しました。25年度は避難経路および消防設備の把握に重点を置きました。訓練参加者の関心も高く、充実した訓練となりました。

(その他)

- ・社会情勢を鑑み、来館者に影響を与えない範囲で、節電を継続しています。
- ・本館入口、谷内館入口、図書室入口などの案内サインの視認性を高めるため、サインの色を黒から白へ変更しました。
- ・消費税増税に伴う観覧料および駐車場使用料の変更に対応するため、館内サインを修正しました。

【次年度への課題】

- ・休憩所、特に飲食可能な場所の確保については、ハードにかかわることであり、長期的な課題として認識しています。
- ・美術館入口や順路が分かりにくいとの意見が寄せられているため、館内サインの見直しを継続します。
- ・災害発生時の帰宅困難者対策を検討します。
- ・建物各所のコーキング剤（目地）の劣化が進行しているため、大規模修繕を検討します。
- ・屋外ベンチや建物など、塗装の劣化している箇所が見受けられますので、対策を検討します。

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
S	A

【達成目標】福祉関連事業への参加者数のべ 280 人

〔目標設定の理由〕

- ・昨年度実績とほぼ同等の 280 人としました

〔一次評価の理由〕

- ・25 年度の福祉関連事業への参加者数はのべ 394 人となり、目標を大きく上回りました。

(福祉関連事業への参加者数)

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
講演会	35	22	29	29
ワークショップ	43	22	19	26
みんなのアトリエ	114	111	169	214
その他	347	0	55	125
計	539	153	272	394

- ・講演会やワークショップの参加者数は、ほぼ例年並みだったといえます。
- ・みんなのアトリエの参加者数は、障害児者に加え、兄弟や保護者の参加も増えたため、昨年より多くなりました。
(平成 24 年度より、障害児者に加え、兄弟や保護者の数も加えています。)
- ・「その他」には、パフォーマンスの鑑賞者と参加者（講師を除く）数を含んでいます。
- ・今年度は、ワークショップとパフォーマンスを同一講師に依頼し、前半に身体を動かすワークショップ、後半にワークショップ参加者にも一部出演してもらいパフォーマンスを行いました。ワークショップとパフォーマンスを一体化したことにより、ワークショップ参加者がより多くの人の前で成果を発表することができました。また、ワークショップ参加者やその保護者は、なじみの薄いモダンダンスに対する親近感が増したようで、熱心にパフォーマンスを鑑賞していました。

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
 - ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
-

〔目標設定の理由〕

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入するよりも、対話鑑賞のような人的対応を充実させることのほうが、福祉の充実につながると考えています。
- ・障害者のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。

〔一次評価の理由〕

- ・障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」では、2008年の開催初年度から参加していただいているリピーターに加え、新規での参加希望者が増え続けています。チラシやHPでの広報活動や、参加者の口コミが広がっている表れと感じます。リピーターの方も、新しく参加しはじめた方も、リラックスして各々のペースで制作を行うことができます。
- ・福祉講演会では、フランスから触察本の原版制作をしている講師を招き、原版制作の裏話や制作上の工夫をお話ししてもらいました。その後、フランスから持参していただいた原版やスケッチなどを、参加者とともに手に取りながらレクチャーできる時間を設けました。これにより、講演の内容が実感できたように思います。また、事前に大学や研究機関に広報をしていたためか、若い参加者が例年より多く見受けられました。
- ・福祉ワークショップでは、からだを動かすことを通じて、どんな人でも楽しく参加できるワークショップを実施しました。講師には、市内でダンススタジオを主宰する清藤美智子氏を招き、講師を通じて、近隣から多くの子どもが参加するよう積極的に呼びかけをしてもらいました。また、今年度は、ワークショップ参加者がその後のパフォーマンスにも参加することとして、ワークショップとパフォーマンスを一体化しました。これにより、ワークショップに共通の目的意識が生まれたこと、またパフォーマンスに対する親近感が増したことなどのプラスの効果が見られたと思います。
- ・養護学校への事前（出前）授業については、3校から依頼があり、計4回の授業を行いました。学校や学年によって障害の程度が大きく変わりますが、教員との打合わせと入念な準備を行い、その都度適した内容にアレンジしながら実施することができました。

【次年度への課題】

- ・「みんなのアトリエ」についてはリピーターも多いため、新たな素材を取り入れるなどして活動内容を見直し、参加者の期待を維持していく必要があります。また、毎年3月にワークショップ室で行っている1年分の作品展示については、観覧者から好評をいただいているため、情報の充実を図るなど、広報活動の場としてさらに活用できると感じました。
- ・福祉ワークショップは、子ども中心でしたが、親子や大人の参加もあり、さまざまな世代の人が一緒に楽しむという目的を達成することができたと思います。しかし、障害のある方の参加や、三世代の参加といった広がりを持つには至りませんでした。障害のある方に参加を無理強いすることはしませんが、養護学校や高齢者団体への広報を手厚く行うなど、より広い層に向けた情報発信を心がけます。
- ・養護学校への事前授業については、教員の評価も高く、今後も依頼があると推測されます。その場合、すでに事前授業を受けた生徒も多くいるため、授業内容や活動プログラム等が重複し過ぎないように工夫する必要があります。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	B

【達成目標】

電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数、公用車走行距離を前年度以下とする

〔目標設定の理由〕

- ・夏季の夜間延長を行わず、開館時間を10時から18時までとする運用を実施することで、電気使用量、水道使用量を削減し、前年度実績以下とします。
- ・また、事務的経費である事務用紙使用枚数、公用車走行距離を前年度実績以下とする達成目標を掲げることで、職員にコスト意識を徹底させます。
- ・四半期毎に数値を算出、前年度数値と比較した結果を職員全員に周知し、前年度より増えている場合は原因を検討し、改善策を実施していくことで、最終的に前年度実績以下とすることを目標とします。

〔一次評価の理由〕

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
電気使用量(昼間)(kwh)	2,946,360	1,744,038	1,696,578	1,436,622
電気使用量(夜間)(kwh)	1,439,940	781,338	863,022	1,135,723
水道使用量(m ³)	4,336	4,426	4,227	4,055
事務用紙使用枚数(枚)	195,760	244,176	216,595	209,241
公用車走行距離(km)	4,138	4,921	4,756	4,413

水道使用量・事務用紙使用枚数・公用車走行距離につきましては前年度実績以下の数値を達成することができました。

しかしながら、電気使用量は前年比約0.5%増という結果となり、使用量を前年度以下にする目標を達成できませんでした。具体的な理由としては、以下のとおりです。

- ・24年度から故障して使用を中止していた空調設備を修繕し、稼働を再開させたことに伴い使用量が増加したと考えられます。
- ・酷暑による夏季の電気使用量の増加が影響しています。

結果としては前年度を上回ってしまいましたが、四半期ごとに各項目の数値を職員全体で把握し、原因等を考えていくことで、職員それぞれが省エネルギーの意識を再確認する契機になったと考えています。

【実施目標】

- ・職員全てが費用対効果を常に意識し、経費削減に向けた取り組みを行う。
 - ・美術館運営に係る経費の収支を改善するため、新たな歳入を見出す。
-

〔目標設定の理由〕

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。
- ・25年度はHPへのバナー広告募集検討、一部ワークショップの有料化を行いますが、経費を削減するだけでなく新たな歳入を見出し収支比率を改善していくことが、美術館運営に必要であると考えています。

〔一次評価の理由〕

事業者選定において、複数業者から見積書を徴収し競争入札を行い、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行し、経費削減を実現しています。

具体的な内容の主なものは、次のとおりです。

- ・特に展覧会の委託関連の予算執行にあたっては、費用対効果の観点から委託内容を見直し、仕様書を再点検し、経費削減に努めています。
- ・事業者選定においては、定められた基準等により契約額及び契約先は入札によって決定することになります。25年度も、特定の業者でなければ実施できない業務を除き、基準外の業務でも見積合せを実施しました。この結果、事業の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を実施できました。
- ・展覧会関連の出張については、宿泊経費がかからないよう出張経路を最短に設定し、旅費の経費を削減しています。また当初宿泊出張予定としていたものでも、スケジュールの調整がいけば日帰り出張にするなどし、経費の削減をしています。
- ・事務用品に関して、在庫整理を実施しながら、購入する際は必要数を再検討して購入しています。

「美術館運営に係る経費の収支を改善するため、新たな歳入を見出す」につきまして、25年度はHPへのバナー広告募集を実施しましたが、入札参加業者の見積額が最低見積額に達しなかったため、見積は無効とし、募集は不調に終わりました。

一部ワークショップの有料化につきましては、25年度は5件のワークショップにおいて参加者負担金を徴収しました。(合計 109,000 円)

その他として、ソフトバンクのWi-Fi 機器を設置したことに伴い、行政財産目的外使用料の新たな歳入が生まれました。(12,000 円)

【次年度への課題】

電力量の削減については、利用者にご不便をおかけすることのない範囲での節電に引き続き取り組んでいきます。

